

森づくり最前線

福島森林管理署白河支署 横川森林事務所
森林官 仁平 明彦

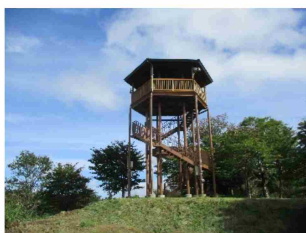
私の勤務する横川森林事務所は、福島県中通り地域の南東部に位置する古殿町にあり、約2,800haの国有林を管理しています。

古殿町は阿武隈山系の標高300～500mにあり、町を東西に縦断している鮫川を境に、南部が横川森林事務所、北部が大原森林事務所の管轄となっています。

また、当事務所管内には鎌倉岳と古殿町最高峰の三株山があり、鎌倉岳は登山道入口に駐車場や長寿の強清水といわれる湧き水などが整備されています。三株山は山頂に展望台が設置されていて、天気の良い日には太平洋や四季折々の眺望が望めます（条件がそろえば富士山も望むことができるそうです）。



▲ 長寿の強清水



▲ 三株山展望台

古殿町は、町の木が「スギ」になっていることからわかるように、非常に林業の盛んな地域となっており、民有林・国有林を合わせて町全体の約8割が森林となっています（国有林は森林全体の約46%）。

そのため、人工林の割合も高く、当事務所管内では年間を通して造林事業が実施されています。

しかしながら近年は、増加する事業量に対して、実行できる林業事業体が不足している状況にあり、今後どのように造林事業を実施していくかが課題になっています。

また、森林管理局署の職員数も不足しており、少ない職員では以前のような調査を実行することが難しくなっています。

その中で、伐採実施箇所や事業の進捗状況、事業実施後の確認・調査を効率的に行うため、

ドローンを活用しています。

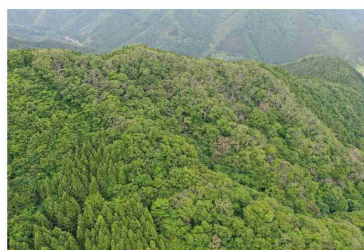
当事務所管内の現場は、急傾斜地も多く、ドローンで撮影した写真を利用することで、重点的に現地確認すべき箇所の洗い出しや、効率的な測量作業のための事前検討ができる実感しています。

当然ながら、ドローンで確認したから終わりという訳ではなく、その後に実際に現場内を歩いて確認する必要がありますが、歩行困難な危険箇所等を確認できるため、非常に助けられています。



▲ 伐採実施箇所
(左:ドローン撮影、右:地上より同地点を撮影)

最近では、いわき市と隣接している地域において「カシノナガキクイムシ」によるものとみられるナラ枯れ森林被害が確認されたため、その被害状況の把握などにも役立てています。



▲ カシノナガキクイムシ被害状況(ドローン撮影)

今後もドローンなどのICTを活用して、国有林の管理に役立てていきたいと思っています。



▲ ドローンで林地を撮影する筆者